

カイオム・バイオサイエンス (TYO: 4583)

CBA-1535がTribody™で初めてとなる臨床試験入り
 その他パイプラインも順調に進捗

◇CBA-1535が臨床第1相試験の投与を開始

創薬事業は各パイプラインが順調に進捗。同社が近年力を入れている Tribody™で初めてとなるCBA-1535の臨床第1相試験が6月より開始されたことが注目に値しよう。CBA-1205は第1相試験後半パートにおいて、肝細胞がん患者への投与が開始。また、新たな創薬プロジェクトにおいては、Tribody™の創薬プロジェクトの研究が進展し、6月に新規特許出願を完了した。各パイプラインの研究・開発は滞りなく進展している。

同社株価は、各社との提携のアナウンスに反応して動きがあるものの、概ね150~200+円のボックス圏で推移する状態が続いている。今後、提携先とのライセンス契約やマイルストーン収入等、具体的な収益に結びつくイベントの公表も見込まれる。株価への好影響を期待したい。

◇2022/12期2Q決算実績

カイオム・バイオサイエンスの2022/12期2Q決算は、売上高 278百万円（前年同期比 27.7%減）、営業損失 779百万円（前年同期は 415百万円の営業損失）となった。前年同期は1QにおいてHenlius社への創薬事業の導出契約一時金（103百万円）を計上したが、今期は創薬支援事業の売上のみとなったことによる。

創薬事業は、臨床開発が進んだことにより研究開発費が 906百万円と前年同期比 231百万円増加し、そのままセグメント損失 690百万円（前年同期は356百万円の損失）となった。

創薬支援事業は、引続き国内製薬企業を中心に既存顧客との安定的な取引が継続。売上高 278百万円（前年同期比 3百万円減少）、セグメント利益 151百万円（4百万円減少）に。前年1Qに大型のスポット案件が入っていたことが減収の主要因。セグメント利益率は 54.3%と目標である50%をクリアしている。

BSにおいては、2022年6月末の総資産は 1,920百万円。2021年12月末比 419百万円減少した。現預金は 319百万円減少し、1,471百万円に。また、CBA-1535の治験薬の製造完了に伴い、前渡金を取り崩し当期費用に計上したこともあり、流動資産が 105百万円減少している。純資産合計は 1,476百万円（前期末は 1,893百万円）。新株予約権の行使により資本金及び資本準備金が、それぞれ 180百万円増加したが、当期純損失の計上により利益剰余金が 770百万円減少した。

2Q決算アップデート

ヘルスケア

2022年9月1日

株価(8/31)	167円
52週高値/安値	276/156円
1日出来高(3ヶ月)	373.0千株
時価総額	74億円
企業価値	61億円
PER(22/12予)	-倍
PBR(21/12実)	5.01倍
予想配当利回り(22/12)	-%
ROE(TTM)	-84.99%
営業利益率(TTM)	-280.13%
ベータ(5年間)	1.05
発行済株式数	44.023百万株
上場市場	東証グロース

株価パフォーマンス



注目点

独自の抗体創薬開発でアンメットニーズに応えるバイオベンチャー企業。10数品目のパイプラインを抱え、うち2品目が臨床段階に。ファーストインクラスの創薬を目指し、同社独自のADLib/Tribodyの技術に立脚した創薬事業を展開。

カイオム・バイオサイエンスはOmega Investment Limitedの顧客であり、同社の依頼を受けてレポートを作成しています。詳しくは、最終ページのディスクレームを参照ください。

決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	当期利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)
2018/12	212	-18.1	-1,539	-	-1,533	-	-1,533	-	-57.26
2019/12	447	110.3	-1,401	-	-1,410	-	-1,403	-	-44.61
2020/12	480	7.4	-1,283	-	-1,291	-	-1,293	-	-36.06
2021/12	712	48.3	-1,334	-	-1,329	-	-1,479	-	-36.74
2022/12 (会予)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2021/12 2Q	384	122.1	-415	-	-409	-	-408	-	-10.16
2022/12 2Q	278	-27.7	-779	-	-768	-	-771	-	-18.17



また、7月には Heidelberg Pharma社とADC技術導入及びオプション契約を締結。Heidelberg Pharma社のアマニチンを用いた動物モデル薬効薬理データも導出データパッケージに追加し、導出活動を一層本格化した。

***創薬研究プロジェクト**；Tribody™分野において、CBA-1535に続き、新たな分子の組み合わせにより強活性のTribody™抗体を組成、この分子を含む新規特許出願が2022年6月に完了した。2022年1月のがん領域のプロジェクトの新規特許出願に続き、2件目の特許出願となった。

同社では、上記を含め常時10テーマ程度の創薬研究を行い、今後の新たな創薬パイプラインの創出に向けた取り組みを継続している。

<導出品>

***LIV-1205**；スイスのADC Therapeutics社にADC用途に限定して導出。ADCTが米国国立がん研究所（NCI）と共同で、神経内分泌がんを対象とした臨床試験を準備中である。

***LIV-2008**；2021年1月に、中国のShanghai Henlius Biotech, Inc.とライセンス契約締結。中国、台湾、香港、マカオにおける開発・製造・販売権を許諾している。Henlius社は、今後のIND申請に向けて複数の開発プランを検討中。更に、他の製薬企業への導出活動も継続中。

◇創薬支援事業の進捗：ロート製薬と委受託契約締結

2022年7月11日、同社はロート製薬と治療用抗体作成に関する新規のオプション権付き委受託契約を締結した。同社のADLib®システムを用いてロート製薬が治療標的とする抗原に対する抗体の取得や取得した抗体の親和性を実施することで対価を受領する。また、作成された抗体が商業化・開発段階に移行する場合、オプション権が行使され、ロート製薬と実施許諾契約を締結する（オプション権の行使期間は同委受託契約にかかる業務終了後5年間）。

また、富士レビオ社からADLib®抗体を用いて開発する診断薬キットが発売されている。

従来からの国内製薬企業を中心とした既存顧客との取引は着実に継続している。

◇コア技術：ADLib®システム／Tribody™の活用と改良を進化、深化

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の助成事業に参画する等、同社のコア技術である、ADLib®システムの活用と改良を継続。日本及び欧州において、ADLib®システムの特許査定を受領した。加えて、Tribody™技術を利用したがん免疫療法に関する研究成果を学会誌に公表。創薬支援事業に関連する技術の向上を図るとともに、自社開発の創薬パイプラインの強化にも資することが期待されている。

◇ファイナンス動向：今期中の研究開発資金は確保

同社は2021年12月15日、第三者割当による第18回新株予約権（行使価額修正条項付）を発行し、約17億円の資金調達契約を締結。今年度中の研究開発投資の確保には目処をつけている。2022年7月末時点での未行使残存個数は43,999個で、45%まで行使が進んだ。

◇2022/12期通期見通し：創薬支援事業（通期6.2億円）は計画通り進捗

2022/12期の業績見通しに関して、同社では継続的な収益が見込まれる創薬支援事業の売上を620百万円と公表している。現状では想定通りに進捗しているもようである。各パイプラインの進捗に伴い、臨床試験費用や治験薬製造費用が高むこと等により、研究開発投資は年間10数億円程度の支出が続くと見込まれる。

◇株価動向：バイオ株調整の影響を受けるも底打ち感（次頁図参照）

2021年後半以降の世界的なハイテクグロース株調整の余波を受け、国内の創薬ベンチャーの株価も低下傾向が続いてきたが、2022年に入ってから下げ止まり感が出ている。

一般的にバイオ創薬の研究・開発には長期間を要し、またその開発リスクも高い。導出一時金やマイルストーン収入実現の可能性はあるが、時期、金額とも未確定という不安要素もある。一方、同社においては治験申請や特許出願といったポジティブなニュースが継続的に発信されている。また創薬プロジェクトは、複数のパイプラインを抱え、CBA-1205、CBA-1535の臨床試験が着実に進捗。投資家へのコミットメントを前倒しで実現してきている。以上の点を考慮すると、現状の株価水準は中長期的視点でリスクを許容できる投資家にとっては、魅力的な投資対象といえるだろう。

株価推移（直近3年間）



相対チャート、4583、TOPIX（直近3年間）



財務データ

(単位：百万円)

	2019/12				2020/12				2021/12				2022/12	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
[損益計算書]														
売上高	64	77	142	165	91	82	139	169	246	139	157	171	128	149
創薬事業	0	1	1	28	1	1	0	1	103	0	0	0	0	0
創薬支援事業	63	76	142	137	90	82	138	168	143	138	157	171	128	149
売上原価	27	26	58	52	61	46	59	70	64	62	78	86	57	69
売上総利益	37	51	84	113	30	36	80	99	182	77	79	84	70	80
販売費及び一般管理費	464	374	503	346	456	346	424	303	337	337	515	568	557	373
研究開発費	363	273	407	256	343	266	342	206	216	243	401	451	446	245
営業利益	-426	-324	-419	-233	-426	-310	-344	-204	-155	-260	-436	-483	-486	-292
営業外収益	0	1	4	0	2	0	3	0	7	0	2	4	0	16
営業外費用	6	4	4	0	0	2	10	1	1	0	1	6	4	1
経常利益	-432	-327	-418	-233	-425	-311	-351	-205	-150	-259	-434	-486	-491	-278
特別利益	2	1	6	0			0	0				0		
特別損失														
税引前当期純利益	-430	-326	-412	-233	-425	-310	-351	-205	-149	-247	-433	-636	-491	-278
法人税等合計	1	0	1	0	1	0	1	1	11	1	1	0	1	2
当期純利益	-431	-326	-413	-234	-425	-311	-352	-206	-161	-248	-434	-637	-492	-279
[貸借対照表]														
流動資産	3,048	3,206	2,807	2,561	2,309	2,805	3,316	3,249	3,294	3,088	2,675	2,216	2,005	1,792
現金及び預金	2,776	2,899	2,469	2,106	1,967	2,472	2,881	2,686	2,580	2,302	2,071	1,790	1,744	1,471
固定資産	219	217	242	247	247	249	249	246	244	241	274	122	121	128
有形固定資産	15	14	12	11	10	9	8	7	6	6	4	4	3	3
投資その他の資産	204	204	230	236	237	240	241	238	237	235	269	118	117	124
資産合計	3,267	3,423	3,049	2,808	2,556	3,054	3,566	3,495	3,537	3,329	2,950	2,339	2,126	1,920
流動負債	177	207	154	145	315	427	378	343	378	428	468	392	419	390
短期借入金					142	199	199	180	180	190	199	183	183	188
固定負債	41	41	41	41	42	42	42	42	42	42	53	53	53	54
負債合計	219	248	196	187	357	469	420	385	420	470	522	446	473	444
純資産合計	3,048	3,175	2,853	2,622	2,199	2,585	3,146	3,110	3,118	2,859	2,428	1,893	1,653	1,476
株主資本合計	3,048	3,175	2,853	2,622	2,199	2,585	3,146	3,110	3,118	2,859	2,428	1,857	1,621	1,445
資本金	5,856	6,084	6,132	6,132	6,133	846	1,303	1,388	1,471	1,471	1,472	1,515	1,642	1,695
資本剰余金	5,846	6,074	6,122	6,122	6,123	2,446	2,903	2,987	3,071	3,071	3,072	3,115	3,242	3,295
利益剰余金	-8,682	-9,008	-9,421	-9,655	-10,080	-736	-1,088	-1,294	-1,455	-1,703	-2,136	-2,773	-3,262	-3,544
新株予約権	28	26	20	22	24	30	28	29	30	19	19	35	31	30
負債純資産合計	3,267	3,423	3,049	2,808	2,556	3,054	3,566	3,495	3,537	3,329	2,950	2,339	2,126	1,920
[キャッシュ・フロー計算書]														
営業活動によるキャッシュ・フロー		-677		-1,537		-528		-1,361		-560		-1,139		-660
税引前当期純損失		-755		-1,401		-734		-1,290		-396		-1,466		-768
投資活動によるキャッシュ・フロー		-		-26		-		3		-		-35		-
有価証券の取得		-		-		-		-		-		-		-
財務活動によるキャッシュ・フロー		1,248		1,341		894		1,944		176		271		341
株式の発行		1,249		1,345		697		1,769		166		253		336
現金及び現金同等物の増減額		570		-222		366		580		-384		-895		-319
現金及び現金同等物の期首残高		2,328		2,328		2,105		2,105		2,686		2,686		1,790
現金及び現金同等物の期末残高		2,899		2,105		2,472		2,686		2,301		1,790		1,471

注) キャッシュ・フロー計算書については、2Qは1Q~2Qの累計、4Qについては1Q~4Qの累計の数値となっている。従って、期首残高も、それぞれ1Qの期首残高となる

出所：同社資料より Omega Investment 作成



General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの Recherche によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。